

教育長賞

【題名】

しあわせに生きること

【学校・学年】

米子市立明道小学校三学年

【氏名】

坂本 理央

わたしはさいしょ、この本がきらいでした。
なぜかと言うと、大好きなママがしんでしま
うお話だからです。

わたしはずっと、はなちゃんのかわりにマ
マに言いたいことがありました。

「どうしてわたしをおいてしんでしまったの。
パパもわたしも毎日つらいよ。わたしはマ
マがいないと生きていけない。ママといっ
しょに天国に行きたい。ママに会いたい。

ママがいない毎日がつらい。つらくてなみ

だが止まらないよ。」

わたしのお母さんがもししんだら、と思う
だけで、わたしはこう思っでなみだが出てき
ます。わたしは、はなちゃんの本当の気持ち
が知りたくなりました。

わたしはお母さんに聞きました。じつはわ
たしのお母さんもはなちゃんと同じで、小さ
いころにお母さんが天国に行ってしまったの
です。

ドキドキしながらお母さんに聞きました。

お母さんのお母さんがしんじった時、ど
んな気持ちだったの。お母さんは、少し考えて、
「つらくてかなしいことがたくさんあったけ
ど、理央に会ったら、ぜんぶちうけしに
なつたよ。」
と言いました。それを聞いてわたしは、うれ
しくてなみだが出ました。つらくてもかなし
くても、生きていたらそれ以上のしあわせな
出来事があるのだと思えました。

きつとはなちゃんのママも、はなちゃんが
しあわせになることを知っていたと思います。
だからちよつときびしいけれど、みえしるの
作り方やそうじやせんたくの方ほうを教え
あげたのだと思います。
この間、母の日に、お母さんにマスクを作
ってプレゼントしました。とてもよろこんで
くれました。お母さんは、子どものころはず
と母の日がつらい一日だったけど、今はと
てもしあわせな一日になったと言っています。

はなちゃんも、きつとこれからたくさんの
しあわせなことがあると思います。

このお話は本当にお話です。あとが
きに、中学生になつたはなちゃん、パパか
らのメッセージがあつて、しあわせにくらし
ているそうです。

さいしよはこの本がきらいでしたか、わた
しのお母さんがしあわせであるように、はな
ちゃんもこれからもきつとしあわせな未来が
あると思うと、大すきになりました。

わたしもはなちゃんのように、早ね早おき
をして、ほつちようを持って台所に立つよう
にしたいと思います。